

烏、神流兩川改修工事概要

内務省東京土木出張所

D17

340

鳥、神流兩川改修工事概要

(昭和八年四月)

總 說

鳥川ハ鳥川幹川及碓氷川、鏑川、神流川ノ大支川ヨリ成ル利根川ノ一大支川ニシテ之等幹支川ハ其源ヲ群馬縣ノ西邊ニ發シ山岳丘陵ノ間ヲ迂餘曲流シタル後群馬、埼玉ノ沃野ヲ貫流シ遂ニ埼玉縣神保原村ニテ利根川ニ注ク

幹支川ノ上流部ハ山岳重疊スルト雖モ一度平地ニ出ツルヤ一帶ノ沃野トナリ農桑ノ業盛ニシテ高崎市ヲ始メトシ倉賀野、新、横川、松井田、安中、下仁田、富岡鬼石、藤岡等ノ都邑沿岸ニ散在シ國有鐵道信越本線、高崎線及八高線並ニ上信電氣鐵道ヲ始メトシ國道第九號線、第十號線其他主要ナル府縣道縱橫ニ走リテ流域ノ主要交通網ヲナス

本川ハ平地ニ於ケル流路延長幹支川ヲ合シ四百八十四糠ニ達スルヲ以テ沿岸三千六百四十ヘクタールノ耕地ハ灌漑用水ヲ之ニ仰キ高崎市ノ上水道亦水源ヲ本川ニ求ムルノミナラス幹支川上流山間部ハ發電水力ノ有望ナル地點ニシテ最近ニ於ケル許可理論水力ハ一萬七千キロワットニ達ス尙岩鼻村以下利根川合流點ニ至ル間ハ舟楫ノ便アリ

斯クノ如ク沿岸民ノ本川ニ負フ所極メテ大ナリト雖モ沿岸ニハ無堤地多ク又堤防矮小薄弱ナルノミナラス水勢急且ツ流量大ナルニヨリ一朝増水ニ遭遇センカ無堤部ハ洪水ノ氾濫著シク有堤部ハ堤防ノ欠潰、溢流頻々トシテ起リ濁流ハ全平野ニ漲リ家屋ノ流失、耕宅地ノ荒廢、堤防、護岸、道路、橋梁等ノ被害續出シ其慘況名狀スヘカラサルモノアリ彼ノ明治四十三年八月ノ大洪水ニ於テハ群馬、埼玉兩縣下ノ水害損失額實ニ參百四拾五萬八千圓ノ巨額ニ達セリ

利根川水系ニ於ケル改修工事ハ幹川筋ニ於テハ明治三十三年度以降第一期工事ト

シテ河口ヨリ千葉縣佐原町迄ヲ、同四十年度ヨリ第二期工事トシテ茨城縣取手町迄ヲ、同四十二年度ヨリ第三期工事トシテ鳥川合流點迄著手シ又支川渡良瀬川ハ明治四十三年度ニ於テ利根川合流點ヨリ栃木縣毛野村迄ヲ、派川江戸川ハ明治四十四年度ヨリ起工シ總改修工費七千四百七拾七萬圓ヲ以テ昭和五年度ニ竣工シタリ尙支川鬼怒川ハ大正十五年度ヨリ起工シ目下施行中ニ係ルヲ以テ本計畫ニ依リ鳥神流改修工事ヲ施行シ之ガ竣工ノ曉ニハ利根幹支川平地部ニ於ケル水害ハ全ク根絶スルニ至ルヘシ

本改修工事ハ幹川群馬縣高崎市以下利根川合流點ニ至ル十九糠、支川神流川埼玉縣兒玉郡青柳村以下烏川合流點ニ至ル十二糠其他鍋川、碓氷川ヲ合シ三十三糠ノ水害ヲ除去セントスルモノニシテ在來ノ堤防ヲ擴築スルト共ニ高崎市及主要部落ニ對シテハ現地形ヲ利用シテ新ニ堤防ヲ設ケテ洪水ノ氾濫ヲ防止スルト雖モ從來ノ氾濫地ハ成ルヘク之ヲ存置シテ遊水ノ効ヲ全カラシメ以テ利根川既改修區域ニ

排疏スル鳥川高水流量ヲ現在以上ニ増大セシメザルコトトセリ

流路及流域

鳥川幹川ハ其源ヲ群馬縣碓氷郡ノ西邊淺間火山群ノ一峰鼻曲山ニ發シ深キ峠流ハ弧狀ヲナシテ鳥淵村ヲ過キ群馬、碓氷兩郡ノ境ヲ流レ倉田村ニテ左支榛名川ヲ合スルト雖モ室田町ニ至ル迄ハ河道狹隘ニシテ斷崖屏立シ長野村ニ至リ左支白川ヲ合シタル後地勢漸ク展ケ碓氷川合流點ニ至ル間ニハ護岸ヲ施シテ耕地ノ欠壊ヲ防禦スル所多シ而シテ白川ハ榛名川ト共ニ榛名山ニ發シ砂礫ノ流出夥シク幹川トノ合流點附近ニ堆積シ流水ハ礫洲ノ間ヲ亂流ス之ヨリ幹川ハ高崎市ニテ右支碓氷川ノ東流スルニ會シ河狀一變シ低水路整ヒ左岸ハ高臺連續スレトモ右岸ハ洪水氾濫區域ニ當リ數箇所ノ横堤ヲ以テ激流ヲ緩和シ耕地ヲ保護ス

八幡村根小屋ニ於テハ流路急曲ヲナスノミナラス河幅亦狹隘ニシテ洪水ノ疏通ヲ

阻ミ水位ヲ上昇セシムルコト大ナリ而シテ最大右支鎌川合流シタル後ハ流量頓ニ増加シ河幅二百米乃至三百米トナル左岸ハ左支井野川合流點附近及玉村町角淵ニ於テ低地ヲ見ルノミナレトモ右岸一帶ハ平地ニシテ鳥川ノ洪水ハ鎌川ノ洪水ト合シ其氾濫最エ甚シ新町ニテ右支貫井川ヲ合シタル後ハ堤防連續シテ神流川合流點ニ至ル而シテ玉村町ニ於テハ流路二派ニ分レ低水時ニハ右岸寄ヲ流ル

神流川合流點以下河幅千三百米ヲ超エ廣漠タル遊水地ヲナシ利根川合流點迄堤防連續シ群馬縣芝根村ニテ左支瀧川ヲ合ハセ埼玉縣神保原村ニテ遂ニ利根川ニ注ク此流路延長八十四糠、内鳥川幹川ニ屬スルモノ六十五糠ナリトス

右支神流川ハ鳥川ノ一大支川ニシテ其源ヲ群馬縣多野郡ノ西隅秩山塊ニ屬スル十石峠ニ發シ山岳重疊ノ間ヲ迂餘曲流シテ東ニ向ヒ幾多ノ溪流ヲ合ハセ群馬縣美原村ニテ流向ヲ北ニ轉シ鬼石町ニテ左支三波川、美九里村ニテ三名川ヲ合シタル後地勢漸ク平坦トナリ河幅著シク增大シ六百米ヲ超ユル所尠カラス然レトモ河床高

ク兩岸耕地ハ洪水ノ氾濫著シキニヨリ埼玉縣青柳村以下ニ於テハ堤防ヲ以テ防禦セラル、所多シ之ヨリ本川ハ群馬、埼玉兩縣ノ境界ヲ一路北ニ流レ埼玉縣賀美村ニテ鳥川ニ注ク此流路延長九十六糸ニシテ内神流川幹川ニ屬スルモノ八十三糸ナリトス

碓氷川ハ鳥川ノ一大右支ニシテ其源ヲ群馬縣ノ西邊淺間火山群ニ屬スル碓氷峠及一ノ宇山ニ發シ附近ノ溪流ヲ集メ碓氷郡ノ中央ヲ東流ス上流部ハ兩岸高ク峽流ヲナスト雖モ原市町附近ニ至レハ河岸低ク耕宅地存ス板鼻町以下ニ於テハ堤防護岸アレトモ斷續セルタメ洪水氾濫スルコト歎シトセス同町ニテ左支九十九川ヲ合シ高崎市ニ至リテ鳥川ニ注ク此流路延長七十八糸ニシテ内碓氷川幹川三十九糸ナリ鎌川ハ其源ヲ餘地峠ニ發シテ北東ニ流レ下仁田町ニ至リ北西ヨリ來ル左支西ノ牧川ヲ合ハセ兩岸高臺ノ間ヲ東流シ一ノ宮町ニテ低地ニ出テ富岡町ニ至リテ妙義山ヨリ發シタル左支高田川ヲ容レ福島町ニテ右支雄川ヲ合ス之ヨリ右岸ニ狹長ナル

十八糸ナリトス
幹支川流域ハ群馬縣高崎市及碓氷、群馬、多野ノ三郡並ニ埼玉縣秩父、兒玉ノ二郡ニ跨リ總流域面積千七百八十二平方糸ニシテ其内譯次ノ如シ

種別	群馬縣	埼玉縣	計
平地	一、四三三 <small>平方糸</small>	四六 <small>平方糸</small>	一、四七九 <small>平方糸</small>
計	一、七一七	二八四	六五
			一、七八二

而シテ右ノ内神流川ハ群馬縣多野、埼玉縣秩父、兒玉ノ三郡ニ瓦リ流域面積四百

種別	山地	群馬縣	埼玉縣	計
合計	三一八	二一	四六四	三六四
三三九	平方糸	一九	四六四	三六四
六五			四〇四	

鳥川流域ノ形狀ハ大體扇形ニシテ水源ハ群馬縣ノ南西部山地ヲ占メ東ハ榛名山ヲ以テ利根川幹川ノ流域ヲ界シ北ハ南北ニ走ル淺間火山群ヲ以テ千曲川流域ト相隣シ南ハ秩父山塊ヲ以テ荒川ト流域ヲ分ツ

水源地方ノ北半部ハ輝石安山岩及安山岩質集塊岩ヨリ成リ南半部ハ主トシテ秩父古生層ヨリ成ルモ神流川上流ノ沿岸ニハ狹長ナル白堊紀層現ハル而シテ之等岩塊ノ盡クル所一部ニ第三紀層ノ丘陵低ク横ハルト雖モ多クハ第四紀層ノ平野連リ臺

地ハ洪積層、沿岸低地ハ冲積層ニ屬ス而シテ之等ノ土性ハ埴土、砂質埴土、礫質埴土及壤土ヨリ成ル

全流域面積ノ七割二分ハ林野ニシテ森林系統ハ落葉闊葉樹ノ溫帶南部ニ屬シ檜又ハ山毛櫟ヲ主林木トナス而シテ流域内概シテ良林ニ乏シク伐採跡又ハ未立木地渺カラス

水利及水運

本川ハ群馬縣ノ西南部及埼玉縣北部ノ平野ヲ貫流スルヲ以テ灌漑ノ利極メテ大ニシテ長野用水、磯部用水、板鼻用水、小野村堰用水、九郷用水、阿保領用水等ハ幹支川ヨリ引水シ其總面積三千六百四十ヘクタールニ達シ内群馬縣分二千八百七十ヘクタール、埼玉縣分七百七十ヘクタールナリ而シテ高崎市ノ水道ハ里見村上里見ニ於テ引水ス又幹支川上流ノ山間部ハ水力發電ノ有望ナル地點ニシテ昭和四

年度迄ノ許可理論水力一萬六千六百キロワットヲ算ス

尙岩鼻村以下利根川合流點ニ至ル間ハ古來舟運盛ナリシカ沿岸ニ鐵道開通シ又河床昂上シ水深減小セルタゞ舟楫ノ便大ナラスト雖モ川船ノ上下スルヲ見ル

水害

本川ノ非常洪水ハ往時ノモノハ暫ク之ヲ措キ明治以降被害ノ激甚ナリシハ明治三十一年、同四十年、同四十三年、大正三年、同九年及昭和三年ナリトス

蓋シ本川ノ洪水ハ夏秋ノ交颶風ノ襲來ニ際シ暖濕ノ南風水源山地ニ豪雨ヲ齎ラスニ起因ス而シテ水源地方ハ日雨量大ナルノミナラス全流域ノ八割ハ山地ニ屬シ而モ森林狀態ノ不良ナル所歎カラサルニ因リ一朝颶風ノ襲來ヲ受ケンカ豪雨沛然トシテ臻リ濁流全平野ニ氾濫ス彼ノ明治四十三年八月ノ洪水ノ如キ無堤部ハ一面ニ氾濫シ有堤部ト雖モ破堤、溢水續出シ沿岸ノ沃野水底ニ沒シ高崎市ノ一部ヲ始メ

トシ沿川ノ都邑浸水ヲ見サルナク家屋ノ流失、耕宅地ノ荒廢、堤防、道路、橋梁ノ被害等直接ノ水害損失額實ニ參百四拾六萬七千九百參拾圓ノ多キニ上リ之ニ加フルニ產業、交通、衛生等諸方面ニ瓦ル被害ヲ考慮スル時ハ其損害ノ莫大ナルヲ知ルヘシ其他年々大小ノ水害ヲ蒙ラサルナク大正八年以降最近十箇年間ニ於ケル年平均水害損失額參拾參萬八千百四拾七圓ヲ算シ就中昭和三年ニ於ケル損失額最大ニシテ六拾參萬四千貳拾七圓ニ及フ而シテ幹支川中大洪水ノ際無堤又ハ破堤、溢水等ニヨリ水害ヲ蒙ル面積ハ六千九百六十ヘクタールヲ算シ内四千七百六十ヘクタールハ本改修區域ニ屬ス

改修計畫

本改修計畫ハ幹川ハ群馬縣高崎市以下利根川合流點ニ至ル十九糺、支川神流川ハ埼玉縣兒玉郡青柳村以下幹川合流點ニ至ル十二糺、支川鎌川ハ群馬縣多野郡小

野村地内一糸、支川碓氷川ハ同縣碓氷郡豊岡村地内一糸合計三十三糸ノ區間ニ於ケル水害ヲ除去スルモノトス

本改修區域ニ於ケル洪水ノ狀況並ニ高水流量増減ノ關係ヲ見ルニ河狀及降雨ノ分佈狀態ニ因リ碓氷川ノ最大流量ハ鳥川ニ先ンスルコト僅々數時間ニ過キサルヲ以テ兩川合流後ニ於ケル流量ハ毎秒二千立方米ニ達スルト雖モ之ヨリ鏑川合流點ニ至ル十糸ノ間ハ始ト無堤地ナルヲ以テ大洪水ノ際ハ右岸耕地ニ氾濫シ數箇所ニ存スル横堤ノ作用ト相俟ツテ洪水流量ヲ輕減シタル後鏑川ノ流量ヲ合ス

鏑川ハ幹支川中流域面積最モ大而モ山相良好ナラサルヲ以テ其合流後ニ於ケル幹川ノ流量ハ著シク增大シ合流點以下ニ於テハ堤防ハ矮小薄弱ナルニヨリ大水ニ際シテハ溢水、破堤ノ起ルヲ常トス神流川合流點以下ハ河幅千三百米ヲ超エ廣漠タル堤外地ハ玉村町ノ無堤地ト共ニ遊水地トシテ働キ神流川合流後ノ流量ヲ遞減セシム

又神流川改修區域ニ於テハ河幅廣大ニシテ河道ニ於ケル流量ノ調節作用尠カラサルノミナラス霞堤多クシテ大水ノ場合ニハ堤内地ニ氾濫ス

一方利根川既改修區域ハ高水流量毎秒五千五百七十立方米ヲ以テ計畫セラルルニヨリ本川ノ水害ヲ救ハシカタメ單ニ無堤地ニ於ケル氾濫ヲ防止スルニ於テハ必然遊水面積ヲ減小セシムル結果高水流量ヲ增加シ且ツ其流下ヲ速カナラシメ利根川既改修區域ニ流入スル流量ヲ著シク大ナラシムヘシ依テ本計畫ニ於ケル計畫高水流量ハ流量測定ノ結果ヲ基礎トシ且ツ前記流量關係ヲ考慮シテ次ノ如ク定メタリ

鳥川 改修起點ヨリ碓氷川合流點迄

毎秒千三百立方米

碓氷川合流點ニテ

毎秒二千立方米

神流川合流點ニテ

毎秒四千百立方米

利根川合流點ニテ

毎秒三千八百立方米

神流川改修起點ニテ

鳥川合流點ニテ

每秒二千立方米

本改修計畫ニ於テハ利根川既改修區域ニ排疏スル高水流量ヲ現狀以上ニ増大セシ
メサルタメ氾濫地ハ成ル可ク之ヲ存置シテ遊水ノ效ヲ保全セシムルヲ方針トシ堤
防ハ舊堤ヲ擴築スルト共ニ高崎市及主要部落ニ對シテハ現地形ヲ利用シテ新ニ堤
防ヲ築キ以テ洪水ノ氾濫ヲ防止シ河道内ハ計畫高水流量ヲ快疏セシムル爲メ掘鑿
ヲ施シテ所要ノ河積ヲ與フルモノトス

而シテ計畫高水位ハ大體既往ノ最高水位ヲ標準トシテ之ヲ定メ又計畫高水勾配ハ
上流高崎市附近ニ於テ四百分ノ一、鎌川合流點附近ニテ五百五十分ノ一、利根川
合流點ニ於テ五百八十分ノ一トシ又支川神流川ハ改修起點青柳村新宿ニテ二百分
ノ一、鳥川合流點附近ニ於テ二百五十分ノ一ヲ保タシム

改修計畫ノ大要ヲ述フレハ鳥川ハ改修起點ヨリ碓氷川合流點ニ至ル間ハ河幅ヲ二

百五十米ト定メ以下鎌川合流點迄ハ之ヲ二百八十米ニ擴大シタリ而シテ高崎市ノ
低地部兩岸ハ新ニ堤防ヲ築設シテ洪水ノ氾濫ヲ防グト雖モ之ヨリ下流ノ氾濫地ハ
現狀ニ止メ著シク洪水ノ疏通ヲ妨クル部分ノミ掘鑿ヲ施スコトトシタリ

鎌川合流點以下神流川合流點迄ハ法線幅ヲ三百五十米トシ以下之ヲ四百五十米ニ
規定シ岩鼻村、小野村、新町及玉村町ニハ新堤ヲ設クルト雖モ其他ハ舊堤擴築ヲ
施スニ止メ新町以下ノ廣瀬ナル堤外地ハ之ヲ遊水區域ニ充ツルモノトス

神流川ハ河幅廣大ナルニヨリ法線幅三百五十米ヲ現川敷ニ做ヒテ之ヲ設定シ河積
ノ足ラザル部分ニノミ掘鑿ヲ行ヒ河幅ノ餘裕アル部分ハ舊態ニ委ネテ遊水區域ト
ナシ堤防ハ賀美村ノ一部ニ新堤ヲ築設セルモ其他ハ舊堤ヲ擴築スルコトトシタリ
尙流路ノ屈曲甚シキ部分及掘鑿箇所ニシテ河岸崩壊ノ虞アル部分ニハ適當ニ護岸
ヲ施シテ堤防及河岸ノ安固ヲ期シ併セテ河身ノ移動ヲ防クモノトス

改修堤防ハ幹川及神流川共天端幅六米、表裏兩法計畫高水位以上ハ二割、以下二

割五分トシ尙小段ヲ附シ天端餘裕高ハ一米五ニシテ堤防延長ハ幹川二萬四千九百
米、神流川一萬八千六百米合計四萬三千五百米ヲ算ス

改修工事ニ伴フ附帶工事ノ主ナルモノハ國道橋柳瀬橋及君ヶ代橋、縣道橋聖石橋等ノ繼足ニシテ其他樋門樋管ノ新設、繼足及用排水路ノ附替ヲ要ス

改修ノ効果

本工事竣工ノ曉ニハ從來水害ニ苦ミタル高崎市ヲ始メトシ五郡十九箇町村四千七百六十ヘクタールノ水害ヲ除去シ災害復舊費及耕宅地ノ諸損耗ニ基ク水害損失平均年額貳拾貳萬六千圓ヲ免レ且ツ農產物ノ增收年平均貳拾七萬參千圓ニ達スルノミナラス高崎市地先百ヘクタール餘ノ無堤地ハ新堤築設ノタメ洪水氾濫ヲ免レ重要ナル商工業地域トナリ商工業發展上及都市計畫上資スルコト大ナリ其他新堤ハ都市及部落ニ近接セル關係上地方交通ヲ利スルコト著シキモノアリ

斯クノ如ク從來ノ水害損失ヲ免レ一面農產物ノ增收ヲ來タシ遂ニハ土地價格ノ昂騰ヲ招キ從テ沿岸地方一帶ノ產業ノ發達ヲ促シ各種交通機關ノ安全衛生狀態ノ改善等直接間接ノ利益ヲ考フル時ハ其效果莫大ナルノミナラス多大ノ國費ト長年月トヲ費シテ竣工セル利根川改修工事ノ效果ハ本改修ニヨリテ更ニ増大スヘシ

鳥・神流兩川改修計畫要項

一、位 置	群馬縣高崎	一 市
二、流域面積	群馬、碓冰、北甘樂、多野、佐波	五 郡
平 地	一、四七九平方糅	二 郡
山 地	三〇三平方糅	一、七八二平方糅
計		一、六四〇ヘクタール
三、灌漑面積		
全 流 域		

四、水害面積

全流域 四、七六〇ヘクタール
改修區域内 四、九六〇ヘクタール

六、九六〇ヘクタール

五、水害損失額

全流域 自大正八年
至昭和三年 十箇年平均 三三八、一四七圓

最 大 昭和三年

六三四、〇二七圓

六、改修區域

幹川 左岸群馬縣群馬郡六鄉村
右岸同 縣碓冰郡豐岡村 以下利根川合流點ニ至ル 一九糸
支川神流川 左岸群馬縣多野郡美九里村
右岸埼玉縣兒玉郡青柳村 以下烏川合流點ニ至ル 一二糸
支川鑄川 左岸群馬縣多野郡小野村
右岸同 縣同 郡同 村 以下烏川合流點ニ至ル 一糸
支川碓氷川 左岸群馬縣碓冰郡豐岡村
右岸同 縣高崎市 以下烏川合流點ニ至ル 一糸

七、計

本計畫ニ於テハ從來ノ氾濫地成ル可ク之ヲ存置シテ遊水ノ效ヲ
全カラシメ以テ利根川既改修區域ニ排疏スル烏川高水流量ヲ現
在以上ニ增大セシメサルヲ方針トシ唯高崎市及主要部落ニ對シ
テハ現地形ヲ利用シ新ニ堤防ヲ築設シテ浸水ノ被害ヲ防止スル

計畫

ト共ニ有堤部ニ於テハ舊堤ヲ擴築シテ破堤、溢水ノ虞ナカラシ
ム而シテ河道内ハ計畫高水量ヲ快疏セシムルタメ掘鑿箇所ニシテ河
所要ノ河積ヲ與ヘ尙流路ノ屈曲著シキ部分及掘鑿箇所ニシテ河
岸缺壊ノ虞アル部分ニハ護岸ヲ施シテ堤防及河岸ノ安固ヲ期シ
併セテ河身ノ移動ヲ防止スルモノトス

八、河

幅

九、堤

防

一〇、流

量

一一、工費

量

神流川 每秒一、三〇〇立方米乃至三、八〇〇立方米
天端幅六米、表裏兩法共二割乃至二割五分尙兩法ニ適當小段ヲ
附シ天端高ハ計畫高水位上一・五米トス

幹川 每秒一、三〇〇立方米乃至三、八〇〇立方米
天端幅六米、表裏兩法共二割乃至二割五分尙兩法ニ適當小段ヲ
附シ天端高ハ計畫高水位上一・五米トス

神流川 每秒一、七〇〇立方米乃至二、〇〇〇立方米
參百六拾參萬圓 内
埼玉縣貳百八拾萬圓

三、工事期間

一〇〇年

三、効果

果

一、本改修工事ニヨリ高崎市ノ低地部及沿岸耕宅地等四、七六〇ヘクタールノ水害ヲ除クトヲ得從テ年々ノ災害復舊費並ニ耕地其他ノ諸損耗ニ基ク水害損失ヲ免ルルノミナラス農作物ノ生産著シク增加ス

二、高崎市地内烏川沿岸一〇〇ヘクタール餘ノ無堤地ハ新堤築設ノタメ洪水洪濫ヲ免レ重要ナル商業地域トナリ商業發展上及都市計畫上資スルコト大ナリ

三、新堤築設ノタメ地方交通ヲ利スルコト著シ

四、多大ノ國費ト長年月トヲ費シテ竣工シタル利根川改修工事ノ効果ハ本改修ニヨリテ更ニ增大ス

五、交通機關ノ安全、各種產業ノ發達、衛生狀態ノ改善等沿岸

住民ノ受クル利益莫大ナリ

鳥、神流兩川一部改修工事概要

一、改修區域

幹川右岸群馬縣多野郡小野村以下利根川合流點ニ至ル

支川神流川左岸群馬縣多野郡岩鼻村以下利根川合流點ニ至ル

右岸埼玉縣兒玉郡賀美村

新町

以下烏川合流點ニ至ル

幹川烏川ハ柳瀬橋以下神流川合流點ニ至ル兩岸ハ大體新堤ヲ築設シ以下利根川合流點ニ至ル間ハ舊堤ヲ擴築ス又支川神流川右岸堤防ハ第九號國道ニ至ル迄之ヲ擴築ス而シテ河道内ハ掘鑿ヲ施シテ計畫高水流量ノ快疏ヲ計リ尙掘鑿箇所及河岸崩壞ノ虞アル箇所ニハ護岸ヲ施工スルモノトス

八拾萬八千圓 内 埼玉縣六拾貳萬壹千圓 拾八萬七千圓

本改修區域内ニ於ケル烏川、神流川ノ合流點ハ從來洪水ノ慘害著シク從テ河幅ノ如キモ利根本川ノ河幅ヨリモ廣ク又烏川右岸

三、工費

四、効

(利根川本川ノ既成堤防上流部)ニ於テハ埼玉縣地域堤内三千ヘクタールノ耕宅地ヲ脅威シタル箇所ナリトス本計畫ニ於テハ利根川既成堤防ニ連續シテ舊堤ヲ擴築シ併セテ合流點ノ河狀ヲ整理スルヲ以テ雷ニ島、神流兩川ニ於ケル上流部ノ洪水疏通ヲ良好ナラシメ水害損失額ヲ著シク輕減セシムルノミナラス利根川ノ河狀ヲ維持スル上ニモ好果ヲ及ホスモノナリ

全計畫及一部改修比較表

種別	全計畫	一部改修(第一期)
總工費	三、六三〇、〇〇〇立方米	八〇八、〇〇〇立方米
改修年限	一〇年	二年
掘鑿土量	一、七五〇、〇〇〇立方米	四六〇、〇〇〇立方米

築堤土量	一、八二〇、〇〇〇立方米	八五〇、〇〇〇立方米
護岸水制延長	二〇、〇二〇米	二、一五〇米
附帶工事	道路二、三〇〇米 排水路七〇〇米 橋梁四個所 樋門二九個所 用水	
改修堤防延長	四三、五一〇米	
灌溉面積	三、六四〇町歩	一四、七〇〇米
水害ヲ免ル、面積	四、七六〇町歩	二、三九四町歩
同上内訳	高崎市 佐波郡芝根村 群馬郡瀧川村 碓氷郡豊岡村 多野郡八幡村 神流村藤田村 神保原村 賀美村	玉村町 岩鼻村 佐野村 岩鼻村 佐波郡芝根村 群馬郡瀧川村 多野郡小野村 兒玉郡仁手村 旭村

兒玉郡仁手村 本庄町 旭村

神保原村 加美村 長幡村

丹庄村 青柳村

(一市十九町村)

三、九六三戸

二七、五六九人

一一六、三二〇円

一一、〇〇〇円

五、八二五戸

三一、七五二人

二三六、〇六〇円

二七二、八八〇円

同上ノ戸數

失額(年)免ル、水害損

見同上
込上
額(年)

同上ノ人口

同上ニ因リ

失額(年)

増收